

平塚の石仏めぐり

4. 四之宮・真土編



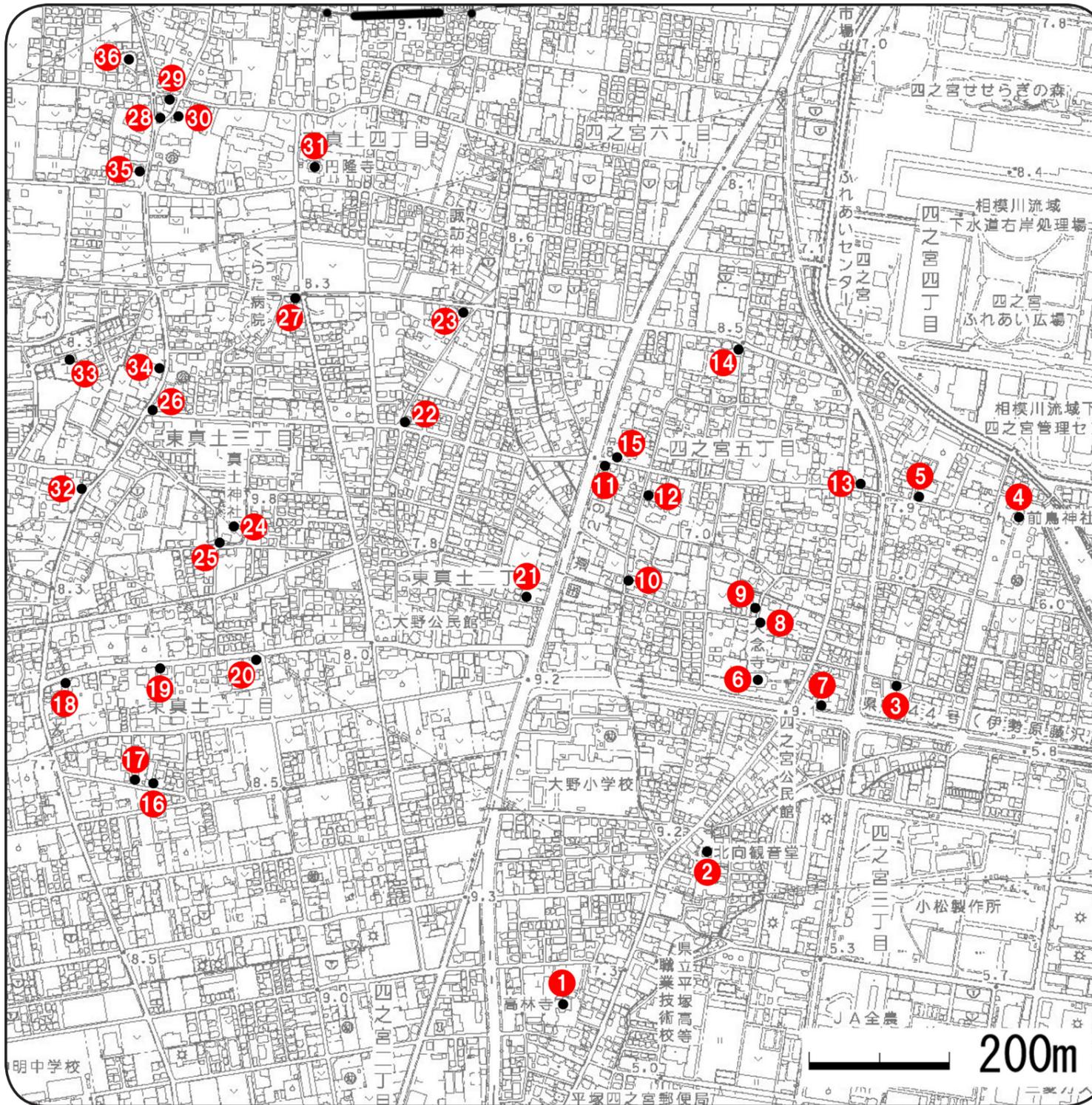
山の神：四之宮 5-10-9 路傍

四之宮・真土の石仏

天保12年刊『新編相模國風土記稿』による四之宮村の戸数は146、新土村は103戸で、どちらも市域の近世村の中では戸数の多い村でした。四之宮は、本村と呼ばれる東町、通町、中庭、西町の南北に下郷と上郷の集落が形成され、真土は北から今里、古真土、大真土、三谷に分かれます。

四之宮鎮守の前鳥神社は平安時代中期に完成した『延喜式神名帳』に記載された古社で、9月28日の例大祭の他、5月5日の国府祭には相模国四之宮として大磯町国府の神揃山へ神輿が渡御します。真土は明治3年に白山社と諏訪社が合併した真土神社が鎮守で、4月第2土曜日が例祭日です。寺院は、四之宮に真言宗の北向観音堂（大会寺）と高林寺、浄土宗の大念寺があります。真土は日蓮宗の円隆寺のみで、これ以外の家は大念寺、田村の妙楽寺、徳延の明王院などの檀家になっています。

石造物の総数は四之宮が121基、真土は74基です。四之宮は1700年代の造立が21基、1800年代が16基で、江戸後期や明治時代よりも江戸中期の造立数が多い傾向を示します。種類別で見ると、観音が四之宮と真土に各10基と多いのが特徴で、市全体の13%を占めます。地蔵は四之宮に13基、真土に3基と対照的です。珍しい石仏に、四之宮西町の山の神像や真土神社の五神地神塔が挙げられます。



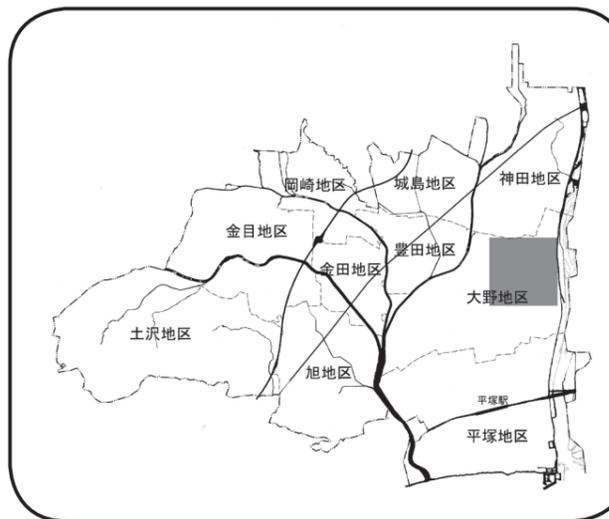
四之宮・真土の石仏所在地と主な石仏

番号	名称	住所	主な石仏
1	高林寺	四之宮 3-2-51	供養塔、庚申塔道標他
2	北向観音堂	四之宮 3-14	光明真言塔、馬頭観音他
3	坪之内共同墓地	四之宮 4-1	庚申塔、地蔵、道祖神他
4	前鳥神社	四之宮 4-14-26	宝篋印塔、社号塔 他
5	四之宮路傍	四之宮 4-16-18	大日如来巡拝塔
6	大念寺	四之宮 5-3-36	徳本名号塔、巡拝塔他
7	阿弥陀共同墓地	四之宮 5-4	六地蔵、如来他
8	四之宮路傍	四之宮 5-6-7	地蔵
9	四之宮路傍	四之宮 5-7-37	種別不明の石仏
10	四之宮路傍	四之宮 5-8-3	地蔵
11	四之宮路傍	四之宮 5-10-9	山の神、弁財天
12	四之宮路傍	四之宮 5-11-37	庚申塔
13	四之宮路傍	四之宮 5-15-1	地蔵
14	四之宮路傍	四之宮 5-21-18	道祖神
15	四之宮路傍	四之宮 5-25-1	庚申塔、道祖神
16	東真土路傍	東真土 1-3-5	不動明王
17	東真土路傍	東真土 1-3-7	道祖神
18	東真土路傍	東真土 1-7-59	観音
19	東真土路傍	東真土 1-8-21	観音
20	東真土路傍	東真土 1-8-46 北	観音
21	東真土路傍	東真土 2-8-8	道祖神
22	東真土路傍	東真土 2-18-9 西	庚申塔
23	東真土路傍	東真土 2-19-66	道標
24	真土神社	東真土 3-5-8	地神塔、庚申塔、観音他
25	東真土路傍	東真土 3-5-8	道祖神
26	東真土路傍	東真土 3-9-46	道祖神
27	東真土路傍	東真土 3-11-44	道祖神
28	東真土路傍	東真土 4-8-24 南	道祖神、道標
29	東真土路傍	東真土 4-8-24 北	稲荷
30	墓地	東真土 4-8-36 南	六地蔵
31	円隆寺	東真土 4-10-25	題目塔、手水石他
32	西真土路傍	西真土 3-8-50	観音
33	古真土共同墓地	西真土 3-14-33 東	地蔵、他
34	真土観音堂	西真土 3-15-28 東	観音巡拝塔
35	西真土路傍	西真土 4-12-35	観音
36	今里共同墓地	西真土 4-13-45 西	地蔵、大日如来他

※当ガイドマップに記載されている石仏の基数は平成26年集計時点のものです。



今里共同墓地の石仏群



石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり (4. 四之宮・真土編)
 発行日：令和元年5月
 編集：石仏を調べる会
 発行：平塚市博物館
 住所：神奈川県平塚市浅間町12-41
 電話：0463-33-5111

高林寺の江戸ヶ崎供養塔 (地図番号①)

高林寺参道入口に、基礎に「江戸ヶ崎」と彫られた大きな石塔があります。江戸ヶ崎は四之宮出身で宮城野部屋に属し、関脇まで昇進し無敵の雷電に土をつけた力士です。文化9年に病死しますが、没後35年を経て弘化4年(1847)に追善相撲が行われました。その時に建てられた供養塔で、施主の宮城野馬五良の他、「当所町頭衆中」「若者頭連中」などの銘があり、四之宮村挙げて催されたことが伺えます。



江戸ヶ崎供養塔 (弘化4年)

北向観音の石仏 (地図番号②)

お堂が北を向いていることからこの名で親しまれています。正式名称は「円通山大会寺」といい、『吾妻鏡』には「大会御堂」と記されています。本尊の聖観世音菩薩像は聖徳太子作と伝えられています。源頼朝が政子の安産祈願に神馬を奉納しています。



寺号塔 (寛政12年)

寺号塔

入口右側に寛政12年(1800)造立の寺号塔があります。塔には「當国三十三所第九番 北向正観世音菩薩」の銘があります。当国三十三所とは相模観音霊場三十三カ所のことで、多くの人々の信仰を集めていました。

光明真言塔

入口左側に宝暦6年(1756)造立の光明真言塔があります。塔の上部には、梵字で光明真言二十三文字が円形に、その中央に大日如来の種子が刻まれています。円の下部には膨大な数の真言を唱えたことをあらわす「奉唱光明真言一百洛又供養」の銘があります。真言を唱えることによって罪業や穢れが取り除かれるといわれています。



光明真言塔 (宝暦6年)

北向観音堂の石仏群

境内奥に宝篋印塔を始め多くの石仏が並んでいます。右側に立つ享保8年(1723)造立の宝篋印塔は石仏群の中で一際目立っています。この塔の特徴は笠の四隅に隅飾突起がないことです。塔身には金剛界四仏が梵字で刻まれています。正面にある正徳6年(1716)造立の地蔵菩薩像には「念佛講中」の銘があります。左側の馬頭観音像は造立年不明ですが、頭上の馬頭や天衣が克明に刻まれています。



左から馬頭、地蔵、馬頭、宝篋印塔

坪之内共同墓地の石仏 (地図番号③)

この場所は前鳥神社の別当寺であった真言宗鏡智院の墓地で、鏡智院は明治維新の神仏分離令(判然令)で神社から切り離され高林寺と合併し廃寺になりました。

庚申塔

墓地入口前にある享保11年(1726)銘の駒型の庚申塔です。中央上部に青面金剛をあらわす「^{ウーン}」の種子を、左右に月輪日輪を配し、中央には六臂青面金剛が彫られ、宝輪、三叉戟、弓、矢を持ち、二手は合掌をしています。下部には三猿が見えます。四之宮にある庚申塔では最も古く、東町で造立されました。



庚申塔 (享保11年)

地藏

墓地奥の地藏群にある寛文5年(1665)銘の舟型地藏です。同時代に造られた東八幡泉蔵院の地藏(寛文10年)や中原大松寺の地藏(寛文12年)と同様に、錫杖の錫が大きく、体に比べ頭部が大きいことが17世紀後半の地藏によく見られる特徴です。地藏の上部には「^{オンカカガヒサンマエイソウ}」と地藏真言が梵字で彫られており、市内ではこれ一体だけのようです。



地藏 (寛文5年)

前鳥神社の石仏 (地図番号④)

平塚八景の一つ、森の前鳥神社は「延喜式神名帳」の相模国大住郡四座のひとつに記載された古社です。また、明治維新の神仏分離令までは、神社を管掌する別当寺「鏡智院」がありました。

社号塔 西の両部鳥居(赤鳥居)右横に、「相模國十三坐之内 前取神社」と彫られた社号塔です。社号は「埼取」「前取」「前鳥」「左喜登利」など、色々な表記があります。

新倉新右衛門が「お伊勢参り」の参拝記念に鏡智院住職證如の代に、奉納しました。



社号塔 (寛政6年(1794))

宝篋印塔 神社正面参道、鐘撞堂横に建つ、笠の大きい立派な宝篋印塔です。笠の隅飾は二弧で花びらのように外に開き、塔身には、月輪内に金剛界四仏の梵字が蓮座に乗った形で刻まれています。基礎には「風雨順時五穀豊穰」「神威倍増村里安穩」などの祈願文が刻まれ、阿闍梨観如の代に造立されました。

神社に宝篋印塔があるのは神仏習合時代の名残です。



宝篋印塔 (宝暦10年(1760))

四之宮四丁目路傍の大日如来巡拝塔 (地図番号⑤)

前鳥神社近くの山口家の角に、安永5年(1858)銘の大日如来巡拝塔があります。上部に阿弥陀三尊の種子を梵字であらわし、「秩父西国四国坂東供養塔」とあります。山口家の先祖が各霊場を巡ったと伝えられています。塔身の上に大日如来像がのっています。首には修復の跡があり、頭部は別物と思われる。地元ではお地藏さんといわれ、いつも赤い着物をまとい、信仰の篤さが伺えます。



大日如来巡拝塔 (安永5年)

大念寺の石仏 (地図番号⑥)

大念寺は浄土宗の寺院で、本尊は上品下生印を結ぶ阿弥陀如来です。山門を入った左に文政7年(1826)造立の徳本名号塔があります。文化14年(1817)徳本上人が相模化益の際、病床の十世単瑞大和尚が上人の十念を聞き往生されたとの記録があり、名号塔は徳本上人の七回忌を記念して造立されたものです。傍には人形芝居「前鳥座」指導者の墓塔や阿弥陀如来などがあります。



徳本名号塔 (文政7年)

四之宮五丁目の山の神 (地図番号⑩)

平地の山の神は珍しく、市内で唯一の神像です。小屋内に、先の少し曲がった鳥帽子をかぶり、合掌しています。「山神宮」「享保十三申天十二月八日」(1728)の銘があります。昔、松林や藪を指してヤマと呼び、落ち葉の恩恵を受けていたため、平地林を司る神として祀ったようです。山の神講があり、講当番は1月16日の宵宮に幟を立て、17日に「山之神宮」の軸へご馳走を供えています。



山の神 (享保13年)

真土観音堂の巡拝塔 (地図番号⑭)

天保14年(1843)銘のある笠付型の観音巡拝塔で、観音堂内の右側にあります。塔上部には聖観音座像が薄肉彫りされ、「西国秩父当国百番普門品三万巻供養」とあり、百観音霊場の巡拝と観音経を三万回唱えた供養として建てられました。石塔の下から経文(普門品)を記した川原石が多量に発見されています。



観音巡拝塔 (天保14年)

真土神社の石仏 (地図番号⑳)

真土神社は明治年間に、真土地域内に鎮座する諏訪社、白山社を始め神明社などの祭神を合祀し、村の総鎮守とした経緯があり、八柱神を祭る神社です。また本殿の左に、平成28年に三谷から移設された芭蕉天神が境内に祀られています。石仏の主なもの次は次の4基ですが、地域内の道路拡張工事などで移設されたものもあります。

地神塔

六角柱に五柱神名と寛政11年(1799)の造立年を刻む地神塔です。正面より右回りに天照大神、倉稻魂命、埴安媛命、少名彦命、大己貴命と、農業に関わりの深い神々の銘が刻まれています。五柱神を名を刻む地神塔は市内では1基のみですが、周辺では伊勢原市、秦野市などで見られます。江戸時代後期の蜂須賀藩(徳島県と淡路島)では藩を挙げての信仰となり多数あります。



地神塔 (寛政11年)

庚申塔・天神・聖観音

- ① 右3番目の青面金剛と三猿の庚申塔は元文5年(1740)の庚申の年に建立されたもので、庚申年に造立された庚申塔は市内に10基です。
- ② 右奥の石祠は「正月25日」と「総筆子中」の文字が彫られ天神社とわかります。紀年銘は弘化5年(1848)です。
- ③ 左奥の観音は先祖供養塔として造立されたものですが、地元では「虫歯の観音さん」と親しまれていました。



真土神社に祀られている石仏群

今里共同墓地の大日如来 (地図番号㉔)

今里共同墓地の入口に、安永5年(1858)銘の丸彫りの胎蔵界大日如来座像が造立されています。座高が80cmとほぼ等身大で、堂々とし迫力があります。基礎には「六十六部大乘妙典回国供養」とあります。日本全国六十六カ国を当時は徒歩で巡礼しながら一国一カ所の霊場に法華経を1部づつ納めるのは何年もかかる大変な苦勞であったと思われます。



大日如来 (安永5年)